

指導技術の伝授

学校をはじめ、多くの業界や組織において、大量退職・大量採用が続き、技術等の伝授が喫緊の課題になっている。

テレビ等でいろいろな業界の様子が紹介されている。

先日、おなじみの警察がでていた。警察は、かつてからベテランと若手がコンビを組み、演出もあろうが、パトカー内で、警らや捜査のポイントを先輩が伝授している様子が紹介されている。今回の番組では、先輩（といっても30歳代後半）が、事案ごとの着目点や伝授したいポイントをていねいにペーパーに記録していた。それを若手が自由に閲覧し、ワイガヤを日常的に行っている。それにより、若手は日常的に街中や警らにおける着目点が肥えてくるようだ。

また、こんな例もある。芸能界だ。

萩本欽一氏を主演にして、若い芸能人たちと昔のことを話題にするバラエティー番組があった。番組自体がお笑いなのだが、途中で何度も萩本氏の芸人哲学が出てきていたように感じた。

コントについての考え方（原稿通りはコントでない）

お金に関した考え方（したいことが重要、金額の問題ではない）

苦手と感じていることに対してどんどん仕事が舞い込んでくること（ひとが見いだしてくれる）

コンビについての考え方（完全に相性が良かったら面白くない） など。

萩本氏の表情が「きりっ」として語る姿と、それを真剣に聞く若手が印象的であった。

さまざまな年代（世代）の視聴者向けに番組を制作し、営業する必要のためできるのだろうが、テレビ番組では、ベテランを主演にしているのだ。

さて、我々の業界へ戻ろう。

現場では、ベテランから指導技術等を伝授してもらう研修会が多く行われている。良いことだと思う。これからは、さらに一歩進んで、学校外の多くの参観者が来る公開発表会や研究大会の公開授業でベテランの授業を見せていただきたいと思う。

近年の授業は、若手の人数が多くなってきたことと言語活動やICT等の活用が求められ、若手の登場が多くなっている。

しかし、こんな場でこそ、ベテランが主役となって若手を含めた教員に指導技術を伝授してほしいと思っている。若手がまだ十分に習得していないベテランだからできる、ベテランだから気がつくちょっとした技を見せていただき、整理会では、授業への考え方や児童生徒との関わり方などを語ってほしいものだ。

今から15年ほど前、研究担当をしていた。当時、トヨタ自動車が熟練工育成の事業として勤務時間後や休日にトヨタS800（通称ヨタハチ、知っている方いますか？）の再生をベテランと若手が行っていた。これをヒントに勤務時間後に、退職を迎える2人の先生に、教員人生と残る者への思いを語っていただいた。管理職も参加してくれた。

いろいろなことを話してくれたし、今でも心に残っている話がいくつかある。会が終わってから、2人は、「今まで語りたかったことが話せてよかった。ありがとう。」と言ってくれた。

ベテランといわれる世代も心の中に、熱いメッセージを持っているのだろうし、伝えてほしい。若い先生方は、多くの先生方と語り、自分を高めていってほしい。よいバトンタッチを願ってやまない。